

第 4 回 高遠町地域協議会会議録

開 催 日	令和 8 年 1 月 1 6 日（金）							
開 催 時 間	開 会		午後 6 時 27 分		閉 会		午後 8 時 07 分	
開 催 場 所	高遠町総合支所会議室							
委員の出欠 出席 11 名 欠席 6 名	番号	委員氏名		出欠	番号	委員氏名		出欠
	1	伊藤 茂			11	澤 広行		欠
	2	西村 則義			12	山崎 恭子		
	3	北原 直			13	伊藤 幸子		
	4	北原 康弘		欠	14	岡部 功治		欠
	5	藤澤 尚弘		欠	15	伊藤 俊成		欠
	6	西村 博			16	伊東 基博		
	7	伊藤 彩		欠	17	井出 順徳		
	8	西野 かおる						
	9	赤羽 幸子						
	10	北原 誠						
署 名 委 員	17 番	井出 順徳		1 番	伊藤 茂			
委 員 以 外 の 出 席 者 出席 9 名	高遠町総合支所長 清水 俊一郎、同総務課長 山下 隆、 同総務課長補佐（総務係長） 北原 善昭、同総務課総務係（主査） 北村 ユミ 危機管理監 埋橋 進、危機管理課消防係長 唐木 猛、 伊那市消防団長 駒井 啓晃、副団長（東部方面隊長）井出 順徳、 東部方面隊第 1 分団長 林 巧、第 2 分団長 高嶋 秀明、第 3 分団長 宮下 雅好 伊那市議会議員 宮原 英幸、伊藤 のり子							
会 議 事 項	報告事項 （１）伊那市消防団東部方面隊の再編について （２）第 4 0 回（令和 8 年度）伊澤修二記念音楽祭について （３）高遠城址公園南曲輪発掘調査について （４）二十歳のつどいについて （５）その他 委員提案について （１）高遠町交通安全協会の今後についての質問							
会議提出資料	1 伊那市消防団再編方針（概要） 【資料 1】 2 第 40 回伊澤修二記念音楽祭について 【資料 2】 3 国史跡高遠城跡 南曲輪 発掘調査現地説明会いて 【資料 3】 4 令和 8 年度二十歳のつどい開催方法の変更について 【資料 4】 5 高遠町交通安全協会の今後についての質問 【資料 5】							

進行 北原副会長

1 開会（午後6時27分） 北原副会長

2 あいさつ 西村会長／清水高遠町総合支所長

- ・欠席委員の報告 4番 北原 康弘 委員、5番 藤澤 尚弘 委員、7番 伊藤 彩 委員
11番 澤 広行 委員、14番 岡部 功治 委員、15番 伊藤 俊成 委員
- ・会議録署名委員 17番 井出 順徳 委員、1番 伊藤 茂 委員

3 報告事項 進行 会長

（1）伊那市消防団東部方面隊の再編について

【説明：危機管理課 管理監】

伊那市消防団は、旧伊那市の天竜川を挟んだ西側が「西部方面隊」、天竜川より東側を「中部方面隊」、旧高遠町、旧長谷村を「東部方面隊」として活動している。このうち「東部方面隊」は、少子高齢化、団員のなり手不足等を理由とする組織の再編を行うこととしている。

—————ここで、出席した消防団長ほか4名の消防団員から自己紹介あり—————

【説明：伊那市消防団 団長】

少子高齢化、人口減少により、伊那市消防団に限らず全国の消防団で団員不足が慢性的な課題となっている。その中で、伊那市消防団においても方面隊を編成するなど、様々な策を講じてきているが、東部方面隊については合併直後から再編を繰り返してきている。

現在の東部方面隊は3分団で編成されているが、現状の課題を踏まえる中で、4年ほど前から現役で活動する幹部や団員と今後についての話し合いを続けてきている。

有事で現場に駆け付ける際に団員が揃わず、現場到着が遅れる状況も見受けられる中で、地域を守る消防団として、消防力の低下だけは防ぎたいという想いで、再度の編成を検討した内容が今回の再編計画となっている。

【説明：危機管理課 消防係長】

少子高齢化に伴い、新規入団者が減少し、団員の平均年齢が上昇している現状を踏まえ、将来にわたり安定した団員数を確保するために、適正な定数と組織の広域化を行う。検討結果として、東部方面隊は3分団7部制から2分団5部制に統合し、分団と部を再編することとしている。

また、条例定数は231人から194人とする。西部、中部方面隊の組織再編は行わず、当面は現状を継続し、条例定数の変更のみとする。西箕輪分団の条例定数は70人から60人に、西春近分団の条例定数は90人から70人とするとしている。

消防団の現状は、条例定数915人、11分団31部、3方面隊制、また、機能分団として音楽隊が設置されている。団員数の減少では、平成29年の951人に対し令和7年は776人にまで減少してきている。

若い世代の減少による担い手不足、加入団員の減少や団員の在籍年数の長期化による高齢化、また、従来の組織単位では人員不足により災害時に必要な活動ができないのが実情である。

定数の見直しでは、各分団長、部長とのヒアリングの結果により必要団員数を確保している。また、東部方面隊の定数変更の考え方としては、ポンプ車では指揮者1名、操作4名、計5名の3倍で合計15名の配置とし、可搬ポンプでは指揮者1名、操作3名の3倍で合計10名の配置とすることで算出している。また、全体の総数では、915名から847名とすることとしている。

東部方面隊の再編案は、第1分団、第2分団、第3分団のうちの第1分団と第2分団を統合し、この分団統合により現在の4つの部を3部10班に再編するもの。また、第3分団は、現在の3つの部を2部8班とする計画としている。

再編による機関設備の見直しでは、積載車、軽積載車が各1台減、可搬ポンプが2台減、詰所・車庫が3棟減となる見通しとなっている。

(委員) 詰所、車庫は3棟なくなるとのことだが、どこがなくなるのか。

(消防係長) 長谷溝口の車庫、高遠山室原の車庫、高遠御堂垣外の旧詰所が消防団として管理しなくなるが、長谷溝口と高遠山室原の車庫は地元が使用する予定となっている。

(副会長) 平成30年前後に東部方面隊は大きく組織が変更されて、また今回再編が行われるが、将来を見越した検討はされているか。当面の間は安定した組織となるのか。

(伊那市消防団副団長) 令和4年から団員間で話し合いを始め、5年後、10年後までを見据えた検討を行っている。また、現団員が50歳の定年まで続けたときに新入団員が一人も入団しない場のこの体制で続けていけるかなどを想定し、シミュレーションしながらこの編成に至っているが、その時々々の現状に応じて、編成の見直しを行う可能性はある。当面はこの編成で安定すると考えている。

(会長) 第3分団の機能班は、1部も2部も各10名を予定しているようだが、機能班とはOBの皆さんの手を借りるという考えでよいのか。

(伊那市消防団副団長) 機能班は、退団後も有事の際に手助けいただける意思のある方をお願いしたいと考えているが、普段の消防団活動は行わず、有事の際に人員が足りないときに手を借りることを想定している。機能班は退団者であれば誰でもよいわけではなく、優秀な人材に残ってもらいたいと考えている。

(会長) 各常会等の自主防災組織は、地域によって機能していないなどバラつきがあると思うが、消防団の立場として自主防災組織に対する強化のアプローチはどのように行っていくのか。

(伊那市消防団団長) 消防団としても、これからは地域と関わりを深く持ちたいと考えている。自主防災組織の訓練の際など、消防団の力が必要な地区があれば、是非協力させていただきたい。また、実際の火災現場では初期消火が重要となることから、地域の防災訓練の際には、消火栓の使い方などお手伝いしていきたい。

(委員) 機能班に報酬は出るのか。

(消防係長) 機能班は有事の際には出動をお願いすることになるため、最低ラインではあるが団員報酬は出ることになっている。

(議員) 伊那市全体を見渡しても団員の確保は難しいが、特に東部地区は人口減少が激しく、合併以降、旧伊那市では6%程度の減少にとどまっているものの、旧高遠町、旧長谷村は3割近く減少している。また、拡散して人が住んでいる中で、地形的にも非常に厳しい地域を東部方面隊は担ってくれている。

有事の際、団員が集まらなないと消防車を出すこともできず、それが初期消火の遅れにもつながる。また、消防団は火災ばかりでなく、特に心配されるのが東部地区は土砂災害が警戒される地域でもあることから、高遠消防署との連携やバックアップ体制を整えていただき、さらに自主防災組織を含めた連携体制をお願いしたい。

もう一つ危惧されるのが、地元にはいない団員がいるという現実である。出動団員が足りない場合の応援体制を今度どうしていくのかも考えていただきたい。

(伊那市消防団団長) 消防団は火災のほか、水害など様々な災害に備えている。ここ数年前からはポンプ操法だけでなく、大規模災害時の対応や要救護者やけが人の救護方法などを消防署の指導を受けながら行っている。また、消防団では、様々な災害に備えた訓練計画を立てるなど、有事の際に団員が対応できるような体制づくりに取り組んでいる。団員が集まらず出動できないといった心配もあるため、方面隊間で出動体制の連携を図るなどの見直しも今後検討していきたいと考えている。

(委員) 我が子が小さいときに、夫が消防団に入団し、家事や育児を置いて出動することに女性の立

場として不安があった。実際に消防団の活動をする中で、今では入団してくれて良かったと思っている。人とのつながりが生まれ、火事の現場に駆けつけて消防団の一員として役に立てていると体感できることは良いことと思う。

子供たちが、自分も大人になったら消防団に関わることができるといった希望が持てるような機会があれば、「大人になったら消防団に入らなければいけない」ではなく、「自分も大人になったら消防団に力を貸すことができる」という気持ちが芽生えるのではないか。小学生や中学生に対し、消防団活動のやり甲斐を伝える場面を作れたら良いのではないか。

(伊那市消防団団長) 消防団が優先すべきは、まず「自分の安全を確保して身を守ること」が大前提となる。団幹部も団員をケガなく無事に帰すことが役目であり、そのための訓練を行っている。

また、災害時は、まず家族の安全を確認できたところで団活動に向かっていただくよう指導している。

昨年、西箕輪分団では、出前で保育園を訪問し、園児たちと一緒に防災訓練を行うなど、消防団活動を地域に知ってもらい取り組みとして好評だったことから、東部方面隊、中部方面隊においても地域の子供たちに消防団を知ってもらう機会を作っていければと考えている。また、出初め式では、「消防フェス」といったイベントを開催し、子供たちにも親しんでいただけるような場づくりにも取り組んでいる。

(2) 第40回(令和8年度)伊澤修二記念音楽祭について【説明：生涯学習課長】

音楽祭は、令和8年10月17日(土)に開催する。主な変更点は、音楽祭全体を3部構成とするもので、第1部を高遠町文化体育館、第2部を県伊那文化会館小ホール、第3部を大ホールの3会場で開催したいと考えている。開催スケジュールでは、第1部を従前の高遠町地区の小中高生の発表に加え、新たに長谷中学校の発表を追加し、東部地区のステージとするもので、開演は9時15分から、終演は11時45分を予定している。

第2部は新たに追加となったステージで、県伊那文化会館小ホールにおいて、伊那地区の中学校の吹奏楽部、合唱部、伊那地区の小学校の合唱クラブや金管バンド、高校の合唱部の発表を考えている。開演は12時10分から、終演は13時50分までを予定している。現在、それぞれの中学校の顧問の先生と、該当する小学校の校長先生に説明を行っている。

第3部は、県伊那文化会館大ホールで、東京藝術大学オーケストラとの共演のステージを考えている。開演は、14時30分から、終演は16時30分を予定している。藝大オーケストラとの共演では、「伊那市の歌」を高遠中学校と伊那ジュニアアンサンブルの吹奏楽クラブが共演するほか、「大地讃頌」を高遠中学校が共演する。また、新たに中学校合唱部合同との共演や伊那ジュニアアンサンブルとの共演という2つのステージを追加していきたい。

名称は、「伊澤修二記念音楽フェスティバル ～東京藝大と子どもたちが紡ぐ一日～」とする案で考えている。この名称は、子供たちからのアンケートをもとに、実行委員会において決定させていただいたもので、また、伊澤修二先生の功績が全県に広がることを願い、副題として、「東京藝大」の名称を使用させていただいている。

(委員) 第1部から第3部まで、ずっと関わっていなければならない児童生徒はいるか。

(生涯学習課長) 第1部は高遠、長谷の児童生徒のみ。高遠中は第1部と第3部の出演となるが、すべて参加する生徒はいない。第2部は伊那地区の生徒のみの参加となるが、第3部にも参加いただく生徒もいる。

(委員) 毎年、高遠中の子供たちは第1部を鑑賞したあと、急いで昼食をとって県伊那文化会館に行っていたが、そうではなくなるのか。

(生涯学習課長) 移動スケジュールはこれまでと同じ。バス移動の時間帯に第2部を開催することとしている。

(委員) 第1部では、毎年、高遠小学校の「お囃子倶楽部」が出演しているが、来年は合唱、合奏だけということか。

(生涯学習課長) 「お囃子倶楽部」にも演奏していただく予定となっている。今年度の内容と変わることはない。

(委員) 第3部にも、高遠小、高遠北小、高遠中は参加するのか。

(生涯学習課長) 例年、高遠小と高遠北小の児童は日程的に大変であったため、第3部には参加していない。来年度も同様と考えている。高遠中の生徒のみ第3部に参加する予定となっている。

(会長) 当初、第1部の文化体育館では音響、照明、客席の構造など、多少難点があったことから、県伊那文化会館での開催を望む声が上がっていた。それと同時に、伊那市内の小学校、中学校にも大きく拡大発展して音楽祭を浸透させていきたいとの考えのもと、検討が進められてきたが、県伊那文化会館では物理的に無理があるとして、第1部は継続して文化体育館を会場とする方向となり、伊澤修二記念音楽祭の意義は高遠の地に留まることとなった。また、名称も「伊澤修二」の名を残していただいた。第2部で旧伊那市の小中学校が参加することで、さらに音楽祭を拡大させる目的も補えることから、おおよそ多くの方の声をカバーした最終案になったと思う。

(委員) 第2部の中学校吹奏学部4校はどここの学校か。

(生涯学習課長) 伊那中学校、東部中学校、西箕輪中学校、春富中学校の4校となる。

(委員) 高遠中学校の吹奏楽部は発表する場がないということか。

(生涯学習課長) 高遠中学校は、第1部の中で学校全体での合唱を発表いただくため、吹奏楽の発表は予定していない。

(委員) 第2部に参加することはできないか。

(生涯学習課長) 第2部は高遠中学校の移動時間中での開催となるため、参加はできない。第3部への出演をお願いしたいと考えている。

(委員) 第2部に高遠、長谷の子供が参加できないというのは残念だと思う。

(生涯学習課長) まずは今年実施する中で、時間配分等を見極めながら検討していきたい。

(委員) 東高遠には伊澤修二先生の生家もあり、私たちは敬意を込めて「先生」と呼んでいる。第2部のプログラムに「伊澤修二先生の顕彰」があるが、高遠の皆さんが大切にしている敬称であるため有り難い。

(3) 高遠城址公園南曲輪発掘調査について【説明：生涯学習課 文化財係長】

教育委員会では、昨年10月から12月まで、高遠城跡の南曲輪において発掘調査を行った。伊那市では、国史跡高遠城跡の歴史や文化を未来に繋ぐため、江戸時代末期の城の姿を目指して整備事業に取り組んでいる。

今回の発掘調査は、その一環で行ったもので、江戸時代に描かれた絵図をもとに庭園の遺構を把握することを目的として行ってきた。この絵図によると、江戸時代後期の南曲輪は、曲輪全体が大規模な庭園で、ひょうたん型の池や滝、茶室などがあり、池の周囲を散策しながら季節の花や風景を楽しめる空間になっていた。

今回の調査では、絵図に描かれた池の位置や規模、構造を確認するために、5ヵ所に調査区（トレンチ）を設定し、合計75平方メートルの調査を行った。資料⑨の調査区では、池の水打ち際とみられる地形が確認され、また、資料⑩、⑪の調査区では池の底の淵に置かれた石列や石積みなども確認している。池の底から水打ち際にかけて立ち上がる部分には、土留めのように石積みを使っ

ていることも確認でき、池の底からは、地面が水につかっていたことを示す土が見つかっており、当時は池であったことが証明されている。

資料⑩の調査区では、池の真ん中にあった中島とみられる地形も確認しており、ほぼ、絵図に描かれたとおりに池が存在していたことが確認できた。

昨年 12 月 13 日に現地説明会を行い、県内外から 70 名を超える方にお越しいただき、調査成果をご覧くださいことができました。現在は、すでに埋め戻しているが、城の中にある一つの曲輪を丸ごと庭園にしている例は全国的に少なく、県内でも唯一の貴重な事例であることから、高遠城の特徴を示すのものとして、来年度も引き続き調査を行い、池の詳細を確認するとともに調査の結果を踏まえ、今後、復元整備の可能性を含め検討を進めていきたい。

(委員) 調査のために掘り起こしたのは建設業者によるものか。

(文化財係長) すべて人力で深さ 2 m 近くまで掘っているが、作業員は職員も関わりつつ、シルバー人材センターにお願いしている。

(委員) 経費はどの程度かかっているのか。

(文化財係長) 今年度の調査では、現場での作業経費（測量、人件費等）となるが、250 万円の予算で実施している。

(4) 二十歳のつどいについて【説明：生涯学習課長】

伊那市では、二十歳のつどいを平成 21 年度から公民館単位の 10 地区 9 会場で開催してきたが、中学校時代の友人や恩師との再会を望む声や、議会一般質問での提案もいただく中で、令和 8 年度からは中学校単位で開催したいと考えている。

大きく変更となるのは伊那地区であり、来年度からは中学校単位として「いなっせ」を会場に 8 月 14 日、15 日の両日、4 回に分けて二十歳のつどいを開催する計画としている。高遠、長谷地区はこれまでも中学校単位で開催していたことから、開催日時及び会場の変更はない。

変更後の開催方法は、これまで地区の方にご協力いただき、実行委員会を組織して開催してきたが、今後は市が主催する方針に変えていくこととしている。

(委員) 来年からは、伊那市主催で開催するということでよいか。これまではイスの準備から片付けまで、公民館の分館長が行っていたが、これからは市の職員が行うということでよいか。

(生涯学習課長) 令和 8 年度から、伊那市主催で開催していく。市が中心となって準備や片付けを行うため、公民館にお願いすることはない。

(5) その他

特になし

4 委員提案について 進行 会長

(1) 高遠町交通安全協会の今後についての質問 【提案：3 番 北原 直 委員】

高遠町交通安全協会の中央支部と藤澤支部が脱退することになったが、高遠町全体の交通安全は区長が各支部の支部長を兼ねることで組織を存続させることになったと聞いている。それでは今までと変わらないのではないかと意見が出ており、組織の今後の運営方法など詳細について説明をいただきたい。

【回答：高遠総務課長】

高遠町地区交通安全協会の今後について、現在、高遠町区長会において検討を進めているが、これまでの経過について説明させていただく。

高遠町安協は、中央支部、長藤支部、三義支部、藤澤支部、河南支部の5つの支部で構成され、このうち、中央支部と藤澤支部では、役員のなり手不足などを理由に令和7年度をもって安協から脱退する。今後、残る支部で高遠町安協を存続するのは困難であるとして、高遠町安協会長から今後の組織の在り方について区長会に相談したい旨の申し出を受けたため、区長会において協議を開始し、高遠町安協は組織として継続していく方向で結論がまとまった。

「(問1) 高遠町交通安全協会の要望と、高遠町12区長会で検討している内容は一致しているか」については、伊那市安協会長の意向や高遠町安協会長からの継続の要望を踏まえての検討結果であることから、方向性は一致しているものと判断している。

今後、高遠町安協が作成した組織を継続させるための新しい体制の素案を元に、近日中に区長会において今後の新しい組織体制を固めることとしている。

「(問2) 従来の組織と今後の組織の相違点及び至った経過についてなど、具体的に説明してほしい」については、従来の高遠町安協の組織は、各町内会、常会等から安協役員を出し合い、各支部単位で安協活動を実施していたが、今後は12区長会が高遠町安協の組織を引き継ぎ、会長職等の役員を配して伊那市安協とのパイプ役として組織を運営していく案として考えている。なお、区長が支部長を兼ねるのではなく、区長は安協の構成員という位置づけであり、各区の安協の組織や活動は地区の判断により独自に行っていただくことを想定している。

また、各町内会、常会等では高齢化等による役員のなり手不足が深刻化し、今後一層、支部の組織や活動が維持できなくなることが想定され、組織が維持できず伊那市安協から脱退した場合、安協活動に資する資機材の支給や交通安全運動の啓発用のぼり旗などの配布が受けられなくなるなど、今後の支障も考えられることから、高遠町安協を存続させるため、12区長会により組織を維持していきたいと考えている。

「(問3) 上部組織との関係性についてはどうなるのか」については、従来どおり伊那市安協の組織に属し、12区長会において、高遠町安協の会長、副会長、事務局等を配置する想定としている。選出方法は、近日中に開催する区長会において決定することとしている。

(委員) 次回の区長会で具体的な方向性が出されるということか。

(高遠総務課長) 区長会で検討し、方向性を出すことにしている。

(委員) 安協の中で、協議は行われているのか。河南支部の話では、協議が行われていないと聞いている。安協では前回の区長会の結果を持ち帰り、安協の中で今後の組織をどうするのかについて話し合いを持った上で案を出してくることになっていたはず。この内容では区長会に丸投げではないか。

(高遠総務課長) 1月に各支部長が集まった折に話し合いを持つと聞いていた。

(支所長) 高遠町安協の支部を残す、残さないといった話もされておらず、中央支部、藤澤支部の解散が決まった中で、今後、残った支部で組織を継続できるかという点と難しい。今までのような支部ではなく地域毎で独自に継続することになると思う。

(委員) 協力金や活動内容などの話し合いは持たれたのか。

(高遠総務課長) 高遠町安協会長の話では、協力金は徴収せず、会計の残余金の中で運営していく案で考えていると聞いている。また、安協の活動として必要最低限必要とする事業を整理した上で、素案を出していただくことになっているが、まだ提案がない状況。

(委員) 5地区の安協での話し合いはされていないのではないかと。

(会長) 今までの高遠町安協の会長、副会長、事務局はどのように選出されていたのか。

(高遠総務課長) 各支部から輪番で役員を選出していたはずである。

(委員) 私も安協の女性部員を経験したが、この活動は本当に必要なのか、また、住民が必要として

いるのか。順番で回ってきて安協役員として会議に出席するが、これは本当に必要とされているのか。安協の組織がなくても、各地区の活動として担っていけないのかと思う。私たちは協力金を支払っているが、このお金が何に使われているのか知らないままである。自分たちの地区の安心安全を守るために、安協という組織が必要なのかを住民を交えて協議する必要があるのではないか。支部内だけの話し合いではないと思う。

(会長) 河南支部や三義支部は安協の活動を残したい意向のようだが、それはこれまでに相応の活動を続けてきたからである。カーブミラーを磨いたり交通安全週間ではのぼり旗を立てたり、チラシを配布しながら街頭指導を行うなど、真面目にやってきたからである。

それを今度、区会や常会の役員に押し付けられても、役員のなり手不足で大変な思いの中で、そこに安協の活動まで入ってきては対応しきれない。区や常会に押し付けて良い話ではないと感じる。

町民全体に対して、常に交通安全をアプローチする団体があってもおかしくはない。辰野町でも安協を廃止するところが、結局、復活することとなったが、一時的な判断だけで解散するといった結論を出すのではなく、慎重な審議が必要であると感じる。その中で、今後の安協を区長会に委ねようとする高遠町安協の姿勢はおかしくないか。地域の交通安全のために、今後につなげる形を作りながら、今の体制を壊していただきたい。

高遠町安協には規約があると思うが、支部が解散するには決議が必要である。その決議は行われたのか。認めたのなら、次の高遠町安協の形をどうするかについて検討していないとおかしいのではないか。その検討した形を区長会に諮るなり、地域協議会で協議するなど、第三者の意見を聞きながら結論を出すのではないか。

(委員) どこの地区でも人が減っている、子供が減っていく。この春、高遠北小学校では4名の児童が入学するが、通学区の中で入学する児童は1人のみである。ほかの3名は通学区外からである。これは大変な現実であり、これまでのように様々な役を皆で担っていけないということは、組織を維持するということよりも、本当に安心安全を守るにはどうしたらよいかということを考えていかなければならない。

(委員) 長藤区会では、中央支部と藤澤支部が脱退すれば高遠町安協は成り立たないとして、長藤も脱退する方向で検討している。しかし、長藤には各集落に交通部を置いているため、その人たちが安協の活動を引き継いでいけば、長藤はこれまでと同じ活動ができるといった話し合いをしてきている。

(会長) 活動を続けるとしても、安協がなくなれば今までのように市からの資機材等は支給されなくなる。今度は区費や常会費で賄っていかなくてはならない。

(委員) 次の区長会で決められるとのことだが、そこで決まっても次期区長の中で反対されることも有り得るのではないか。安協の中での話し合いと区長会での話し合いが一致していないと感じる。

(会長) この議題を協議会に挙げるのであれば、高遠町安協の会長が本来出席すべきである。そうでなければここで協議しても意味がない。当事者がいない場で協議するのはおかしくないか。

(支所長) 12月の区長会において、伊那市安協の会長にも出席いただき、その話し合いの中で高遠町安協に新しい組織の素案をつくっていただきたいたいとお願いしてきたところだが、未だ素案が示されてこない状況である。週明けの月曜日に区長会を開催することになっているが、素案が示されても内容次第では区長会の承認が得られないことも考えられる。先程来のお話のとおり、しっかり協議した上で安協の体制を整えて次の組織へ引き継ぎをしていただきたいたいと考えている。

高遠町地区安協は、伊那市全体から見ても特異性があり、これまで区長会が一切関わってこな

なかったのが高遠町安協の組織体系であるが、旧伊那市、旧長谷村では安協に区長会が関わりを持ち、区長会から役員を出している地域も存在する。高遠町安協は区長会も行政も関わってこなかったため、このような解散という実情を把握することができず、区長会に迷惑を掛けている状況となっている。今後の区長会での検討や対応次第で、あらためて協議会に安協関係者にも出席していただき、皆さんからご意見をお聞きする場も必要ではないかと感じている。

5 その他

特になし

6 次回日程について

委員提案事項提出期限 2月4日（水）

次回開催日 3月12日（木）

（地域協議会委員の任期最後の会議となる。）

7 閉会（午後8時07分） 副会長

